

## 遠隔合同授業の活用で広がる学びの可能性

伊那西小学校は小規模特認校であるために、5年生の児童数は12名のみ。外国語の授業において、他の児童とのコミュニケーションを大切にしながら進めたいと考えています。

他校との交流は児童たちにとっても緊張感のあるイベントであるので難しさはあるものの、頑張るしかない状況乗り越えていくことによって力を付けることにつながるであろうと考えています。(伊那西小)



伊那北小学校5年生 1組・2組



伊那西小学校5年生

## 遠隔授業の必要性を最大限に引き出し、効果的な学習に繋げる

学力向上検討委員会による公開授業後の研究会に参加していただいた先生方からいただいた意見をまとめました。

## 遠隔授業の必要性について

## 多様な他者との交流機会の提供:

児童数が少ない学校では、いつもの同じメンバーで話している「全然面白くない」と感じることもあり、多人数や多様な他者と関わるために遠隔授業が「素晴らしい」と評価されていました。また、見知らぬ相手と初めて話す機会を提供することは「とても有効」であると認識されていました。

## 英語使用機会の創出と学習意欲の向上:

普段の授業では英語を話す機会が少ない生徒もいる中で、遠隔で繋ぐことで「全員が英語を話す機会がある」と良いと指摘されています。また、繋いだ瞬間に子どもたちの気持ちが「パッと変わった」り、「聞きたい」という意欲が湧いたりする効果があり、子どもたちが「とても楽しかった、良かった」と感想を述べている点からも、学習意欲の向上に寄与していることが伺えます。

## 教員の自発的なニーズ:

校長先生からの提案ではなく、担任の先生が「ぜひやりたい」という「必要性」から遠隔授業が生まれた事例も紹介され、教員自身がより良い教育機会を求める中で遠隔授業が選択肢となっていることが示唆されています。

## 学習内容の深化と挑戦の場:

英語が母語ではない子どもたちにとって、聞き取りにくさや自信のなさがある中で、遠隔授業は自己紹介やスピーチなど「挑戦する場」として有効であると考えられています。

これらの遠隔授業の必要性を最大限に引き出し、効果的な学習に繋げるための評価と改善点として

## 全員参加の確保:

Zoomのブレイクアウト機能などを活用し、人数の多少に関わらず「全員が英語を話す機会がもてる」ようにすることが提案されました。

## 明確な学習目標の設定:

授業や単元のゴール(目的)を明確にすることが非常に重要であると強調されています。例えば、交流が目的なのか、自己紹介が目的なのかをはっきりさせることで、子どもたちの振り返りもより具体的になり、授業の組み立てもしやすくなるとされています。

## コミュニケーションの工夫と支援

## 発音と非言語コミュニケーション:

ALTの先生の「すごく綺麗な発音」が評価され、聞き取れない時には「ワモンア」と言ったり、アクションやジェスチャーが助けになったりすることが指摘されています。ゆっくり、はっきりと話すことやジェスチャーを活用することで、相手に伝わりやすくなるという意見も出ています。

## 視覚的な補助:

Zoomでの音声の聞き取りにくさを補うために、相手の名前が見えることや、バスケットボールやフェンシングのような単語を黒板に書くことで、子どもたちが内容を理解しやすくなるという「合理的配慮」の観点も挙げられています。

## 事前の練習:

子どもたちが英語を話すことに「とてもテレがある」という課題に対し、ペアで十分な練習をしてから授業に臨むことが効果的であると述べられています。

## 適切な機材の使用:

音声の聞こえ方によって子どもたちの没入感が変わるため、マイクやスピーカーのセットのような機材が、特に規模の大きい学校では必要であるという指摘があります。

遠隔授業は従来の教室では得難い多様な交流機会と英語使用の場を提供し、子どもの学習意欲を高めるという点で大きな必要性和利点を持っているということです。その上で、全ての児童に機会を与える工夫、明確な学習目標設定、コミュニケーションを助ける様々な支援、そして適切な機材の導入といった点が、遠隔授業の効果を最大化し、その利点を評価するための重要な要素として研究会では議論されました。

授業の詳細はTeams「InaWaku2025授業づくり」参照  
伊那市学校教育情報化ビジョン2024

遠隔教育システム活用ガイドブック(文部科学省)  
令和2年度 遠隔教育システムの効果的な活用に関する実証

遠隔授業に関する資料はこちらから閲覧できます



## 遠隔合同授業の活用で広がる学びの可能性

～小規模校・少人数学級でも「つながる」学びを～

## ■ 遠隔合同授業のねらい

児童生徒の人数を補い、学び合いの場を確保  
異なる考えを持つ仲間と共に学ぶことで、多様な視点にふれる  
話し合いや協働的な学習活動を促進し、活発な学びを実現

## ■ 効果的な学習場面とそのねらい

- 発表  
学習意欲・相手意識の向上  
普段とは異なる相手に向けて発表することで、伝えたい気持ちが高まる  
表現力の育成  
遠隔の相手に分りやすく伝える力が自然と養われる
- 考えや意見の出し合い  
多様な考えに触れる機会の創出  
自分では思いつかなかった新しい考えや視点に出会い、思考が広がる
- 議論や話し合い  
自分の考えを深める  
多角的な意見の中で、自分の考えを再構築できる

- 活動の広がり  
外国語活動などでの会話練習が増え、必然性のある対話が生まれる
- 協働制作  
創造的なアイデアの共有  
話し合いを重ねながら制作活動を行い、多様な視点やアドバイスにふれる  
社会性の育成  
役割分担や共同作業を通して、他者との関わり方を学ぶ
  - 情報の集約  
より深い学びの実現  
理科実験や確率の学習で、複数のデータを集めて比較・考察しやすくなる  
異なる環境での共通性を理解  
遠隔地でも同じ法則が成り立つことを実感できる
  - 遠隔にある教育資源の活用  
学習資源へのアクセス拡大  
図書館・博物館・外部専門家など、地域を越えた資源を活用可能  
教員の専門性を活かした連携  
教員同士が得意分野を補完し合い、授業の質を高める

伊那西小学校と伊那北小学校の5年によって行われた外国語の遠隔授業の様子を紹介しました

探究的な学び

先進的な学び

個別最適な学び

協働的な学び

自立的な学び

子どもと共に未来を創る教員